

生育診断ほ調査結果と今後の管理

令和 8 (2026) 年 7 月 23 日

那須農業振興事務所

- ・ **出穂期**：**北部は 8/3 頃と予測**（前年値：7/29）
南部は 7/23 頃と予測（前年値：7/22）
- ・ **水管理**：落水時期の目安は**出穂後 30 日以降**
- ・ **カメムシ**：薬剤防除を徹底する

1 現在の生育状況

水稻生育診断ほ調査結果（調査日：7/21、品種：コシヒカリ、施肥：全量基肥）

調査地点	移植日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉齢	葉色 (葉色板)	幼穂長 (mm)	生育診断値 (葉色×茎数)
北部 (那須町寺子丙)	5/10	75.1	372	11.5	3.6	28.3	1,350
		84%	86%	-1.4	+0.3	-118.7	94%
南部 (那須塩原市一区町)	5/2	94.6	472	13.2	3.8	出穂始	1,792
		90%	124%	+0.5	±0.0	-	124%

※下段は前年比及び前年差

栽植密度は、北部：20.0 株/㎡、南部：18.2 株/㎡

- ・ 草 丈：前年と比べて北部はかなり低く、南部は低い
- ・ 茎 数：前年と比べて北部は少なく、南部はかなり多い
- ・ 葉 齢：前年と比べて北部は 1.4 枚少なく、南部は前年並み
- ・ 葉 色：前年と比べて北部はやや濃く、南部は前年並み
- ・ 幼穂長：前年と比べて北部は 118.7mm 短い

→**北部での出穂期は 8/3 頃**になると予測

(前年の出穂期：7/29)

※出穂期を予測する際には、右上の表を参考にしてください

南部では出穂始めであったため、調査無し

→**南部での出穂期は 7/23 頃**になると予測（前年の出穂期：7/22）

コシヒカリの幼穂長と出穂前日数

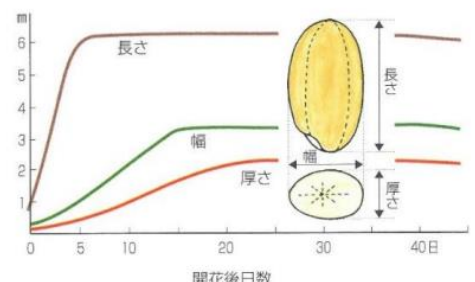
幼穂長 (mm)	出穂前日数
0.8	25
3.6	20
17.2	15
72.9	10
187.3	5

※安心イネづくりより抜粋

2 今後の管理

(1) 水管理

- ・ 7/21 現在、南部の調査地点では出穂始めを迎えたが、引き続き間断かん水が続ける
- ただし、出穂期頃は玄米登熟のために水が多く必要
- かん水の間隔を短くして、**水を切らさないための管理**を行う



玄米外形の発達（星川、1975）

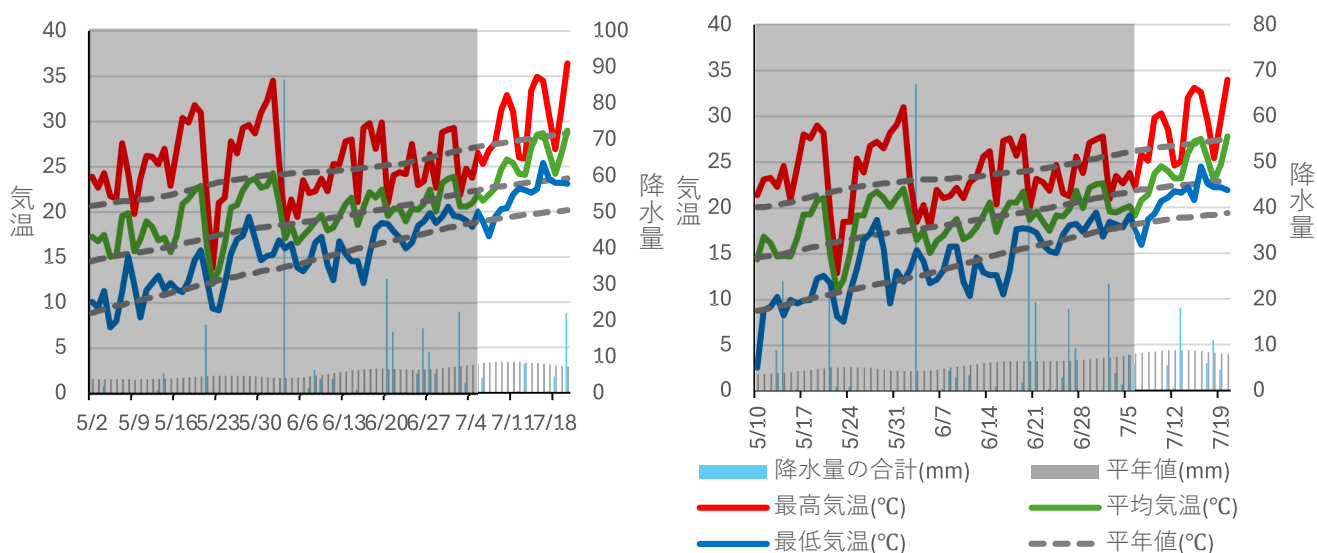
- ・玄米の大きさがおおそ決まってくるのは出穂後 30 日
→**落水は出穂後 30 日以降**を目安に行う
- ・高温になると、胴割米や白未熟米の発生が多くなる傾向がある
→異常高温時は、**地温低下を目的とした水管理（可能な限りかけ流し、夜間かん水等）**を行う

(2) 斑点米カメムシ対策

- ・近年の高温により、カメムシ類の越冬数や発生回数は増加傾向にあるため、**複数回の防除**が有効
※特に発生が多い場合は、**いつもより防除回数を 1 回増やす**ことを検討
- ・防除は、薬剤散布による**一斉防除が基本**

【薬剤防除の適期】 ・斑点米カメムシ対策：①出穂期 7～10 日後 ②①の 7～10 日後
・イネカメムシ対策：①出穂期頃 ②①の 7～10 日後

3 気象の経過（左：大田原アメダス、右：黒磯アメダス）



前回調査日（7/6）から、平均気温は平年より 2～2.5℃/日高く、前年並みで推移した。また、1 日あたりの降水量は、北部で前年比 42%、南部で前年比 24%と非常に少なかった。

(参考) 今後の気象（関東甲信越地方 1 か月予報、7/16 気象庁発表）

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	関東甲信越地方	向こう 1 か月 07/18～08/17	10 30 60
		1 週目 07/18～07/24	10 20 70
		2 週目 07/25～07/31	10 20 70
		3～4 週目 08/01～08/14	10 40 50
降水量	関東甲信越地方	向こう 1 か月 07/18～08/17	30 40 30
日照時間	関東甲信越地方	向こう 1 か月 07/18～08/17	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

向こう 1 か月の気象予報

- ・気 温：平年より高い確率 60%
- ・降 水 量：平年並みの確率 40%
- ・日照時間：平年並みの確率 40%



高温による品質低下が懸念されるため、
地温低下のための水管理が必要！



7月～8月は「農作業中の熱中症による死亡事故」が集中します。
「自分だけは大丈夫」と思わないで、こまめな休息、水分補給を！